

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成27年度技術情報第15号(イチゴのハダニ類, アザミウマ類)について(送付)

イチゴのハダニ類, アザミウマ類について情報を取りまとめましたので送付します。本年は10月下旬以降の気温が平年より高く推移し, ハダニ類, アザミウマ類の発生が増加しています。今後の気温も高めに推移することが予想されており, 発生にはより一層の注意が必要です。

1 農作物名 イチゴ

2 病害虫名 ハダニ類, アザミウマ類

3 発生状況

(1) 発生地域 県本土

(2) 発生量 多

4 情報の根拠

(1) ハダニ類の11月の発生ほ場率は73%で平年(38%)より高く(図1), 過去10年では最も高い。また, 発生程度の高いほ場も認められている(表1)。

(2) アザミウマ類の11月の発生ほ場率は73%で平年(19%)より高く(図2), 過去10年では最も高い。成虫のみが認められており11月にかけて侵入したと推測される。また, 発生程度も高い(表2)。

(3) むこう1カ月の気象予報でも気温が高く推移することが予想されており, 発生には好適な条件となっている。

5 防除上注意すべき事項

(1) ハダニ類では防除効果を高めるため, 下葉かきを行い薬剤が葉裏や下位葉にかかるように散布する。

(2) 天敵を導入するほ場では放飼前の密度がその後の発生に影響するため, 防除を徹底する。薬剤の選定では天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

(3) 薬剤によっては感受性が低下しているので, 散布後は防除効果を確認する。

(4) 同一系統薬剤の連用を避け, 作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

(5) 薬剤によってはミツバチに影響があるので, 薬剤選定に注意する(農薬使用の手引き参照)。

6 調査結果

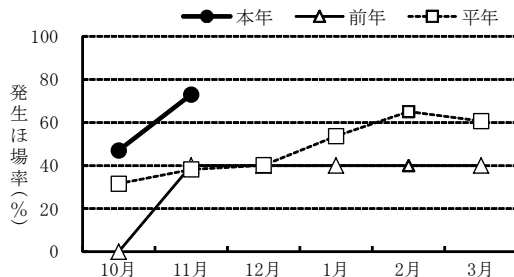


図1 ハダニ類の発生ほ場率の推移

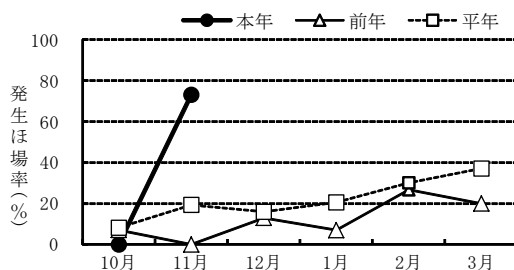


図2 アザミウマ類の発生ほ場率の推移

表1 11月の発生程度別ほ場数(ハダニ類)

調査地点	ほ場数	発生程度 ^{a)}			
		甚	多	中	少
日置市	4	1		1	2
さつま町	3				1
志布志市	7			3	3

a) 発生程度: 甚は寄生株率で96%以上, 多は71~95%, 中は41~70%, 少は1~40%

表2 11月の発生程度別ほ場数(アザミウマ類)

調査地点	ほ場数	発生程度 ^{a)}			
		甚	多	中	少
日置市	4			2	1
さつま町	3				2
志布志市	7	1	1	1	3

a) 発生程度: 甚は寄生花率で31%以上, 多は16~30%, 中は6~15%, 少は1~40%